

# シラス漁へのフグ稚魚混入防止対策研究

(予算区分 県単 研究期間 平成27～29年度)

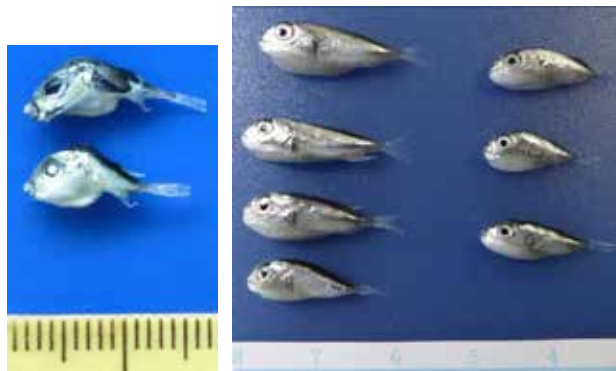
担当：資源海洋科 高木康次

## 【研究の背景とねらい】

- ・平成26年に、シラス加工品にフグの稚魚が混入する事例が全国の多くの地域で発生しました。フグの取り扱いには法令に定められており、国からも注意喚起がなされました。
- ・加工業者は、混入防止のため厳しくチェックしていますが、全て取り除くことは困難なため、対応に苦慮しています。本県のシラス水揚量は全国有数であるため、フグ稚魚の混入は漁業者、加工業に大きな影響を与えています。
- ・サイズが数ミリの程度のフグ稚魚は、外見からの種査定は困難であることや、混入稚魚の多くは有用種ではないため、分布や生態の知見は多くありません。そのため混入防止対策は受身にならざるを得ません。
- ・平成26年度に検査したフグ稚魚からは、フグ毒の主成分であるテトロドトキシンは未検出でしたが、時期、検体数が限定されるため、この結果により無毒とは言えません。
- ・本研究では、フグ稚魚の種類や混入時期、場所、毒性等を調査することで、発生時期や生息場所等の生態を明らかにします。これにより、操業場所を変更したり異物除去の重点時期を設定する等の積極的な対策が可能になり、フグ稚魚混入のリスクを軽減します。



平成26年にフグ稚魚の混入が発生した県と産地



混入したフグ稚魚  
サイズが小さいと種査定は困難

## 【期待される効果】

- ・フグ稚魚の少ない場所や時期で操業することで、漁獲物への混入が減少する。
- ・混入量の時期的変化に合わせたチェック体制をとることで、異物混入のコストを抑えることができる。
- ・異物混入防止の取り組みを情報発信することで、消費者へ安全性のアピールができる。

## 【年次計画】

細目課題	27年度	28年度	29年度
大規模砂泥域開発調査資料の整理			
漁獲物、加工品への混入状況の把握			
フグ稚魚の分布海域の把握			
フグ稚魚の毒性の有無の確認			
フグ稚魚混入注意喚起カレンダーの作成			

(作成 平成27年4月)